



日本大学
歯学部保存学教室
修復学講座教授

宮崎 真至
先生

日本大学
歯学部保存学教室
修復学講座

辻本 暁正
先生

今回のアイテム

ハーキュライトウルトラフロー

ペーストのコントロールが容易なフロアブルレジン

フロアブルレジンは、ペーストの流動性に特徴をもたせたもので、当初は窩洞の裏層を主な目的とし、これに狭小な窩洞への充填修復なども加えられるというものであった。その後、機械的強度の向上とともに、異なる流動性を付与することによってその適応症が拡大し、比較的大きい窩洞にも使用可能となっている。このように、多種にわたるコンポジットレジンが市販されるということは、臨床使用における選択肢が増えたことを意味している。その一方で、どの製品を選択するかに関しては、臨床家にとって大きな疑問となつているかもしれない。もちろん、コンポジットレジンの選択に関しては、各製品が有している特徴を十分に理解することが重要であり、症例によって異なる要求事項を明確にして、その症例に適したペーストを選択すべきである。

のコントロールが容易であるところから、比較的充填が難しい箇所においても確実な修復が可能となっている。手に馴染む適度な大きさのシリンジという製品形態で供給され、充填に際してはニードルタイプのアプリケータを用いるため、ペーストを直接窩洞に填塞することも可能である。臨床使用の簡便さ、あるいは適応症の多様化を可能にするものでもあり、その臨床使用頻度は高いものと考えられる。もちろん、簡便操作でありながら確実な歯質接着性が得られるオブチボンドオールインワンあるいはオブチボンドXTRの使用は欠かせないものがあり、セルフエッチ接着システムとフロアブルレジンの併用は、これからの臨床に大きな変革をもたらすものと期待される。

フロアブルレジンは、器具到達が難しい舌側面窩洞あるいは比較的小さい窩洞などの充填にも適している。ここで注意しなくてはいけないのが、同じフロアブルレジンであっても製品によってはその流動性に違いがあり、これが充填される窩洞環境の影響も受ける。

製品選択に当たっては、接着システムとのトータルパフォーマンスを考慮すべきであり、その点からもハーキュライトウルトラフローは秀逸である。

ハークキュライトウルトラフローは、ファイラー技術の向上によって高い機械的性質とともに優れた研磨性を有している。さらに、MMステインアプリケータなどの充填器によるペーストの流れ

のコントロールが容易であるところから、比較的充填が難しい箇所においても確実な修復が可能となっている。手に馴染む適度な大きさのシリンジという製品形態で供給され、充填に際してはニードルタイプのアプリケータを用いるため、ペーストを直接窩洞に填塞することも可能である。臨床使用の簡便さ、あるいは適応症の多様化を可能にするものでもあり、その臨床使用頻度は高いものと考えられる。もちろん、簡便操作でありながら確実な歯質接着性が得られるオブチボンドオールインワンあるいはオブチボンドXTRの使用は欠かせないものがあり、セルフエッチ接着システムとフロアブルレジンの併用は、これからの臨床に大きな変革をもたらすものと期待される。

フロアブルレジンは、器具到達が難しい舌側面窩洞あるいは比較的小さい窩洞などの充填にも適している。ここで注意しなくてはいけないのが、同じフロアブルレジンであっても製品によってはその流動性に違いがあり、これが充填される窩洞環境の影響も受ける。

製品選択に当たっては、接着システムとのトータルパフォーマンスを考慮すべきであり、その点からもハーキュライトウルトラフローは秀逸である。

症例 1



1-1 周囲軟組織の保護に留意し、窩洞形成が終了する。



1-2 接着操作は、修復の予後を左右する大きな因子となる。



1-3 特に歯頸部修復では、メンテナンスが重要となる。

症例 2



2-1 歯頸部楔上欠損は、臨床でもその修復対象となる頻度は高い。



2-2 歯肉圧排を行うことで、術野を明確するとともに歯肉溝浸出液の洩出を防止する。



2-3 ダイヤモンドポイントを用いて歯面を一層削除する。



2-4 接着操作を行うが、このとき、製造者指示に従うことが肝要である。



2-5 ハークキュライト ウルトラフローを窩洞に填塞する。切縁寄りのマージンにチップ先端を当てて填塞するとよい。



2-6 MMステインアプリケータを用いてレジンペーストの形態をコントロールする。



2-7 形態修正には、ブルーホワイトカーバイドバーならびにオブチワンステップ ポリッシャーを用いる。



2-8 修復終了時には、マージンの移行性を十分にチェックする。